

アンケート調査結果概要

	前原横渚海岸周辺の現状	鴨川市全体における前原横渚海岸周辺の立ち位置	目指すべき前原横渚海岸周辺の姿	目指すべき姿を実現するための貢献
鴨川市観光協会 (鈴木健史委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・人が集う仕組みができておらず、サーファー等を除くと単に眺める海岸にしかなっていない。 ・海水浴客が減少しているが、鴨川に魅力がなくなったのではなく、海水浴に魅力がなくなったのであり、ビーチを楽しむ方向性へシフトすべき。 ・ヨットハーバーが完全に海岸線と分離しており、町のブランディングに貢献していない。 ・現在の前原横渚海岸については、眺め以外は特質すべき魅力がなく、決して上質な日常を提供していない。 ・マリナーからマルキポイントに至る海岸線を統一された構想で再開発するという発想が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鴨川の観光の一大ポイントになり得る場所であり、鴨川で統一したイメージを作り出せる数少ないダイナミックな場所である。 ・本町通りや新町通りのシャッターを開けさせるためには、まずは可能性の一番高いエリア、即ち前原横渚海岸の町づくりを成功させる。前原横渚海岸の町づくりの成功はその裾野を埋める大元であると位置づけられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歩ける所、そして歩いて楽しい所に人は集積することから、海外の成功している海浜リゾートはビーチ沿いには遊歩道があり、遊歩道に面して商店等が並び、それらの店舗は全て海を向いている。 ・車が往来する道をメインにするのではなく、人が歩く道をメインにして、人が集うビーチの町づくりをしてゆくことが必要。イメージメイカーとなるお洒落な店舗については市外から誘致することも含め、市民会館と市営プールの跡地はまとまった土地として商店等の人が集まる要素を作る。 ・フィッシャリーナに人が集う施設(商店や飲食店、道の駅、市場(マルシェ)、サイクリングステーション等)を誘致。 ・マリナーから旧市民プールまでをひとつの流れとし、更にはその延長線においてマルキポイントまでを同一イメージでつなげ、各施設には海岸線に顔を向けた施設運営を要請し、協力を仰ぐ。その海岸線を人が楽しみながらウォーキングし、ジョギングし、サイクリングし、流れる仕組みを作ることが必要。 ・途中にある産業廃棄物集積所の移転。 ・線としてつなぐためには、私有地についても再開発に協力を仰ぐことも必要。協力しないと損であるという仕組みを作ることが大切。 ・お洒落で、素敵で、経済合理性の高い建築様式の活用や、外部資本の誘致等により、実現可能なプランが必要。 ・看板のイメージ統一等により、統一されたイメージを訴求することで、前原横渚海岸エリアのブランディングにつなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・海岸線に向けたエントランスを作り、レストランやカフェを海岸線から利用できる形に改装することなどは協力可能。 ・同じ海岸線に位置する近隣施設と連携を図り、お互いの相乗効果を強く出し合う等の努力。 ・全体の青写真を作るに当り、これまでのリゾートの経験を活かした協力が可能。
鴨川市観光協会 (藤巻武仁委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・駐車場整備が必要。 ・観光客の食事場所がない。 ・海岸付近にある公園の整備はきちんとされているか気になる。 ・海岸はテラポットがあるため砂浜が広がった。 ・駅と海岸が近く、駅から海へは気軽に行けるが、駅前は申し訳ない程何もなく観光地とは言えない状況。(既存の建物、業種に問題あり) 	<ul style="list-style-type: none"> ・鴨川市の重要な観光地であり、観光客のほとんどはサーフィンやマリンスポーツ、磯遊び目的で来ていると思う。そのため、海岸周辺は最も観光客が集まる印象が強い。 ・鴨川の表玄関であり、顔。 ・ヤシの木の生えた海岸はともリゾート感があり魅力的。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安心安全なリゾート感覚で訪れられる場所。 ・観光客がより過ごしやすくまた来たいと思ってもらうことが大切。 ・ホテル、レジャー施設、カフェ等を充実させるべき。 ・「旅の目的は美味しいものを食べること」だと思うので、海の近くに「漁協直営食堂」的な食事ができる施設を作り集客を図る。 ・周辺道路や駐車場の確保、整備。 	<ul style="list-style-type: none"> ・提案 (弊社での取り組みというわけではないが)目指すべき姿を具体化しないと取り組みが出来ないと思うが、問い3のリゾート感覚で言うならば周辺の建物の色の統一化、安全安心で言うならば周辺の照明の増設。
鴨川市商工会 (清水宏委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・「鴨川市の海浜リゾート地?としての顔」であるが、魅力に欠ける。 ・「渚百選」「日本のサーフィン発祥の地の一つ?」「房総のハワイ?」等の呼び声の割には、周辺のアプローチを含めた整備がなされておらずブアーである。 ・立地条件としての関連施設の充実、利便性、統一性等の総合的なバランスが取れていない。 ・地域住民(市民)が個人的にも組織的にも積極的に関わって環境美化・保全整備や来訪者に対する情報発信・人的な交流がなされていない。(地域の宝として) ・通年イベントの会場としての利活用に止まっており、市民の日常にもっと活かす知恵と努力に欠けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鴨川市の交通・商業・観光・海浜リゾートの中心地域。 ・来訪者と居住住民の交流が図れる魅力の溢れた鴨川市の窓口。 	<p>(前提)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鴨川市全体として、「都市計画」のビジョンに基づき検討すべき。風紀住宅地区、歓楽街的な地区、商業地区、公園・スポーツ地区や文教地区等のクラスターを進める都市計画により、各々の活性化を図る必要。 ・将来にわたる町のビジョンをしっかりと地域住民を交え作り上げ、計画性を持った地域開発を進め、住民が楽しく幸せを実感し、安全安心な暮らしができる町を作ることが第一優先。 ・しっかりとした優先順位付けを確立し、ビジョンにのっとった人的・経済的(予算)な計画を立案すべき。そのため、住民や行政はまちづくりで「何をしたいか」「どこをを目指すのか」をはっきり決め、この事業は「誰がやるのか」を明確にすることが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・商工会として、基幹地場産業である一次産業の農林漁業資源を活用した歴史文化に根差した事業化やブランド化の促進。鴨川に来なければ味わえない・手に入らない等による来訪者の誘客に結びつく流通の工夫とおもてなしのスタイルの確立支援。 ・「地元企業が成長できる環境づくり」のため、成長志向の強い地場中小企業に的を絞って支援し、成長を促し地域雇用を改善させ、民・学・官の連携の橋渡しの役割を担う。 ・高齢化・独居化する地元消費者の生活支援のため、居住区単位の買い物弱者・介護支援の官民連携の支援事業化の受け皿養成による地域活性化支援。 ・地場産業の後継者育成による事業者の減少防止と(企業誘致や再開発より)空き家(空き店舗)活用による賑わいづくりのための、街づくり組織を立ち上げて、新規参入事業者として40歳代の中堅世代の住みたい街を創り地域活性化支援を行う。 ・都市計画による産業・情報・交通インフラ整備に基づいた、活用できる人材育成支援を担う。
鴨川市商工会 (福田雄一郎委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・年々、海水浴客も減り、以前の賑わいに比べると大分寂しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鴨川駅を降りて真っすぐ先にある鴨川の顔。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族連れ、カップルの海水浴だけでなく、海に入らなくても立ち寄れるようなお店が必要。 ・浜辺で遊べるアクティビティの充実。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的にどこから手を付けていいのかわからない。
鴨川市漁業 協同組合 (徳山英樹委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・前原海岸は砂浜も広く、近辺ではこんなに綺麗な海水浴場は無いのに、守屋海岸や御宿海岸の方が海水浴客が圧倒的に多いように感じる。 ・トイレ、シャワー等公共施設が無料で利用出来るのに観光客が少ない。海岸周辺は夏以外観光客を見かけない。 ・どこもそうだが商店街は人が歩いてなく寂しく感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鴨川市の重要な観光拠点。 	<ul style="list-style-type: none"> ・周年を通して観光客が訪れられる様な観光地づくり。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水産分野での出来る範囲での協力。
鴨川温泉旅館業 協同組合 (久根崎達郎委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・前原横渚海岸は、渚100景にも選ばれ、海水浴場としても夏は賑わいを見せるが、その期間外は、普通の浜辺のイメージ。特に冬場は閑散としているのが現状。 ・鴨川市民の散策の場。 	<ul style="list-style-type: none"> ・浸食はあるが、湾曲した眺望の良い海岸であり、鴨川市=海。 ・鴨川市の売りの1要因。 ・鴨川のイメージを代表する場所であり、四季を通して人が集まる中心となるべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・JR鴨川駅より海岸に向う導線の整備。(海水浴場を駅正面に移設) ・駐車場の整備と現市民会館の有効活用。 ・海離れが進む現状、プールを活用した海水浴場。 ・市営の日帰り温泉施設の整備(海が見える温泉施設) ・夏場だけでなく、四季を通じて魅力あるイベントで集客があり、市内旅館、ホテルと一体となった観光地として認知される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前原横渚海岸の魅力をもつ宿のHP及び季節リーフレット等で積極的に周知し、鴨川全体の集客の底上げに貢献する。

	前原横渚海岸周辺の現状	鴨川市全体における前原横渚海岸周辺の立ち位置	目指すべき前原横渚海岸周辺の姿	目指すべき姿を実現するための貢献
鴨川ライフセービングクラブ(水谷好伸委員)	・ゴースタウン、過疎地域、シャッター通り、ジジババタウン。	・本来であれば鴨川市の顔。 ・鴨川市の中心地でなければならない地域。	・鴨川市の顔 中心でなければならない。 ・商業地域の再生 ※商店街の復活(海の商店街) ※飲食店&呑み屋(居酒屋&屋台(スナック&バー)海鮮食堂	記載なし
鴨川シーワールド(齋藤哲二委員)	・前原横渚海岸は「日本の渚百選」に選ばれる程、美しい海岸だが、海岸周辺の賑わいは少ない。海水浴シーズン以外になると観光客を見かける機会が少ない。	・安房鴨川駅からも近く、鴨川を代表する海岸。 ・「サーフィン発祥の地」としてサーファーの間では有名な海岸だが、一般の観光客には認知度は低い。	・前原横渚海岸は年間を通してサーファーは多く見受けられるが、「サーファー以外のお客様」も年間を通して楽しめるようにする必要。 ・多くの人に認知され、更に一年を通して多くの観光客に来てもらえる海岸とすべき。	・当施設(シーワールド、シーワールドホテル)に来た観光客に対して、「前原横渚海岸」を、パンフレット、ポスター等でPRを行うことは可能。
鴨川青年会議所(菅原明善委員)	・宮城県の松島では、松島湾を一望できる遊歩道がしっかりと「動線」の役割を果たしており、まちづくりの趣旨が分かりやすく、目的がはっきりとしていて、尚かつ美しいため、海岸通りが観光客を迎え入れる準備ができています。 ・鴨川も松島に負けないうらいの海があり、自然があるが、PRが足りていない。 ・海岸沿いにシンボルとなるようなものもない。	・まさに鴨川のメイン。海なくしては鴨川ではない。 ・花火大会やイベントだけではなく、前原横渚海岸を中心としたまちづくりが必要。	・テーマを決めたらブレずに海岸の統一感と世界観を演出すべき。 ・集客力のあるプロムナードの改変や「鴨川らしいおみやげ」を買えるような建物を立て、それがシンボルとなるようにブランディングする。 ・市民会館跡地の再利用法として、ここに来れば鴨川らしいものが「食べられる」「買える」「感じられる」を満たせる建物とすべき。鴨川のおみやげブースや、海に面したカフェ、オルカ鴨川FCのグッズ売り場、鴨川のイベントや観光スポットの掲示など。 ・鴨川でしか飲めないドリンクの提供や、パッケージを統一したブランディング商品の陳列。 ・食に関しては、しっかりと定義付けされた料理を提供する。	・個人はもちろん、会員負担の事業費だけの青年会議所だけでは実現は難しい。 ・各団体が市が一丸となって取り組む事でブランディングは完成する。 ・しっかりと定義を作り、周知させる事が必要。こういった会議などで意見交換し、決まった目標に対して協力可能。
鴨川ライオンズクラブ若獅子支部(立野健児委員)	・前原海岸やシーワールドはTV等でも多く取り上げられ、知名度も高い反面、海岸への車でアクセスが分かりづらい。 ・特に夏場の駐車場も少ないうえに、夏場のマリナー駐車場も分かりづらい。	・鴨川の観光の表玄関であり、顔。 ・車で海岸へのアクセスや鴨川駅から海岸までの通りをもう少し、華やかにした方がよい。	・海岸沿いはきれいに整備されており、今後は広くてアクセスしやすい駐車場の確保が必要。 ・町中をブラブラと散歩や食べ歩きなどができるようにすべき。	・ライオンズクラブ若獅子会では、毎年、まるゴミクリーン活動に参加。 ・今年の8月には前原マリンロードの歩行者天国にも参画。 ・今後もこのような清掃活動や鴨川市を盛り上げるイベント活動には積極的に参加。
鴨川サーフィンクラブ(川井幹雄委員)	・海岸に設置されているテトラポットが美観を損ねている。また、子供たちや初心者に適した波とするため、一番右側(フィッシャリーナ側)のテトラポットを除去してもらいたい。	記載なし	・コンテストが開かれるような、サーフィンに適した波を造り出し世界中から人を呼ぶ。 ・カリフォルニアのハンティングビーチにある様な桟橋を作ったら海側全体が変わる。	・個人は無理。
鴨川市健康づくり推進協議会(村永信吾委員)	・鴨川の海岸線は印象的であり、鴨川漁港の先端からホテル群を眺めると海側から波が陸側に迫る感じで迫力がある。 ・海岸へのルートが狭いうえに分かりづらく、駐車場も少ない。 ・最近整備されていないためアリーナなども寂れた印象 ・砂浜が最近減少している印象がある。砂浜が今後減少しない対策が必要。	・鴨川の顔であり、鴨川観光の出発点。	・自然が引き立つ街とし、単なる自然だけではなく、道路等の整備を図る。 ・老若男女だれでも、健康者のみならず車いすなどでも運動できるコース整備を進める。 ・鴨川の海の幸や山の幸を紹介するとともに、海を見ながら海の幸を味わえるスポットが必要。	・温暖な地域を強みに、冬場や春先などに高齢者等の健康滞在型のツアーや鴨川日帰り癒しツアーなど旅行会社と提携して促進する。 ・鴨川の名所を紹介する携帯アプリの開発。 ・鴨川おらがどん、グランプリを海の日に開催など(どこのおらがどんがうまいか投票)。年に一度の開催にて各店の技術の向上を図る。 ・鴨川砂浜ロードレース 前原海岸—東条海岸砂浜マラソン。 <提案> ・首都圏高齢者(特に要介護者)受け入れ施設の整備(特区)
鴨川ガイド協会(原田洋美委員)	・鴨川を代表する観光スポットとしての海水浴場としては、物的環境面において中途半端さを感じる。 ・まずは、駐車場が観光客にとって駐車無料というのは大変ありがたいが、鴨川においては海岸から近い駐車場が少なく感じる。また、防犯上駐車場には管理者が必要。 ・南国風の遊歩道だが、路上駐車の増加により自由な行き来がしづらい。 ・サーファー向けのお店が多く、一般客にとっては入店しづらく、また入ったとしても違和感を感じる観光客も少なくない。 ・バスや電車などの交通公共機関を利用して鴨川へ海水浴に来る観光客にとって、駅からのまっすぐな道はこれからの海水浴を楽しむに感じさせる大切な道。現在の道を振り返ってみると海水浴、レジャーを感じさせる雰囲気はほぼ皆無であり、安房鴨川駅からの道の整備も必要。 ・防犯安全性については、警察との連携も必要。通年ではなくとも海水浴シーズンの時にだけ駐在所を設けたり、パトロールの強化を図ったりして観光客の安全が守られる環境づくりも必要。 ・今の世の中にとってSNSの影響力が大きいのは間違いない。魅力ある情報(写真・イベント情報・動画)の発信の充実・拡大も必要。	・花火大会、シーフェスタなどのイベント時には、集客人数No.1であり、鴨川といえばやはり「海」のイメージは強い。だからこそ力を入れる必要がある。	・ファミリー向けの海水浴場。 □駐車場の拡大 □駅からの歩道の充実 □無料の更衣室・シャワーの拡大 □防犯面の充実 □周辺店舗の充実 □屋間のイベント □DJラジオブース(前原横渚海水浴場の今を配信※bayFMとの連携) □大型ショッピングセンター □無料開放の公園の拡大 □大型プールの充実 □泊まりたいくなるようなホテルの充実 □シャトルバスの充実 □桟橋	・美しい海水浴場維持推進に向けたごみゼロ運動の参加。 ・様々な海でのイベントへの参加。

	前原横渚海岸周辺の現状	鴨川市全体における前原横渚海岸周辺の立ち位置	目指すべき前原横渚海岸周辺の姿	目指すべき姿を実現するための貢献
城西国際大学 観光学部 (渡辺淳一委員)	<ul style="list-style-type: none"> 高台から見た海岸は、非常に魅力的。 夏の海水浴以外の春秋冬において楽しめるようになってない。 	<ul style="list-style-type: none"> 駅に近く海岸と旧市街との融合による魅力ある地域づくりが行える潜在力がある。 鴨川市全体の都市計画でのこの地域での位置付けの検討がもちろん必要であるが、ある意味鴨川市らしいまちづくりが行える場所であり、鴨川市が自慢できる地域のへその役割を担うことが可能。 	<ul style="list-style-type: none"> 観光地としての最大の競争力は、地域全体での「住んでよし、訪れてよし」を具現化すること。その意味でも周辺地域に市民を含めた多くの人々が魅力を感じ得るようにすることが肝要。その具現化は、そこに住む住民との協議と協働が不可欠。 地域の現状把握と法的及び技術的な検討等をコンサル中心に行い、住民との対話が行うという長期的な展望と海岸整備という比較的短期的な計画での策定と実施が求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> 長期的な展望において、地域にある大学がはたす役割を大きい。また、その関与によって、鴨川市にある大学だからできる学生への教育が具現化できることは大歓迎。 ただし、その実費への予算措置は是非お願いしたい。
城西国際大学 観光学部 (内山達也委員)	<ul style="list-style-type: none"> 海水浴場としてのイメージはあるが、鴨川市が目指す「リゾート」、「癒し」のイメージは浮かび難い。 海岸プロムナードの防波堤に立つと、海岸の美しさに惹かれるが、海岸沿いの道に車が止められていたり、市民会館やプール、駐車場の老朽化の印象も残ってしまう。 駅前から続く商店街の多くは古く寂しい印象。 	<ul style="list-style-type: none"> 鴨川市内の他の海岸とは異なり、広く美しい砂浜のある前原横渚海岸は、鴨川市の顔となる海岸である。 「癒しのリゾート鴨川」を体現できるような海岸線になってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 「癒しのリゾート」を体現する空間を目指してほしい。そのためには前原横渚海岸でゆっくりとくつろげる空間を創出する。 現在の海岸周辺の商店は、新規のファミリー層は身構えてしまうような雰囲気がある。まずは、新規の来客層が手軽に入れるような雰囲気作りと、ビジターセンターのような施設が必要であると考え。つまり、「誰もが立ち寄れる空間・施設」が必要であると考え。 	<ul style="list-style-type: none"> 「癒しのリゾート」を体現するにはダイナミックにまちづくりを行う必要がある。 現時点での具体的な取り組みについては浮かばないができる限り協力したい。
文理開成高等学校 (鈴木淳委員)	<ul style="list-style-type: none"> 雄大な太平洋の大海原に海岸線と街並みが緩やかな弧を描いて流れている光景は風光明媚であるとともに、駅から近いというも大きな利点。 海岸線に目を向けると、その顔となるべき各施設・建物には老朽化が著しいものが散見され、寂しい雰囲気がぬぐえない。 海岸近いエリアに目を向けると、ポロポロになった小さいアパートや廃墟のような建物が多く見られ、更には産業廃棄物施設が大きな面積を占める等、人が集積する明るいイメージには程遠い雰囲気を醸成している。 	<ul style="list-style-type: none"> 鴨川市は、その無形資産として、海は勿論のこと、山も有する絶好のポジションにある。そのなかで、これまでの歴史的な経緯や現状を鑑みたととき、やはり海の魅力の方が比重としては大きいと判断できる。 前原横渚海岸はターミナル駅からも至近であり、鴨川シーワールドや主要宿泊施設、亀田総合病院等も存在することも考えると、鴨川市の保有する「海」という無形資産の中心に位置づけられるべきエリア。 	<ul style="list-style-type: none"> 鴨川市が将来長きに亘り発展していくためには、日本だけでなく、世界中に対してアピールできる魅力を保有することが不可欠。 世界最高品質のエンターテインメント、宿泊&食事、そして世界最高品質の医療サービスと学校教育を求めて世界中から比較的裕福な人々が集積する場所とすべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 個人としてはこれまで経験してきたことを全力でアウトプットして貢献。 文理開成学園としては鴨川市で90年近い歴史を有する伝統ある学園との自覚を持って、スイスに見られるような世界中から優秀な子供たちを集めるインターナショナルスクールの設立を軸に貢献。
地域おこし協力隊 (橋詰良子委員)	<ul style="list-style-type: none"> 閑散としたイメージ(反面、ゆっくりしたい人には抜群に良い)。 海岸沿いにサーファーの姿はあるものの、一歩奥まった商店街は人通りが少なく、寂れ感が否めない。 海岸のお手洗いの清掃が行き届いていないなど、最低限の整備がされていない印象が寂れ感を助長している。 	<ul style="list-style-type: none"> 鴨川シーワールドと並ぶ、鴨川市の顔。やはり、鴨川といえば「海＝前原海岸」という印象がある。 都内から1時間半程度で来られる美しい海岸は魅力的で、ウミガメの産卵もあると聞いているが、PRされていないようで残念。 	<ul style="list-style-type: none"> 前原海岸は、海岸線の景観やゆったりしたムードが魅力だが、その魅力をこれから(＝若い人たち)の感覚にフィットさせつつ、わかりやすく意思のあるコンセプトを持った街づくり・活性化を行うことが今後の継続的な発展につながる。ex. ナチュラリスト志向の街づくりなど。 	<ul style="list-style-type: none"> これからを担う世代の意見をまとめたご提案 移住して半年程度だが、地域おこし協力隊活動とは別に、住居(待崎橋付近)周辺に、同世代の友人・知人を多数持つことができた。プロフィールは、移住者・鴨川出身者交えた40歳前後が中心で、それぞれに専門知識を持って鴨川で活躍、自分自身の足場をしっかりと固めたうえで、前原海岸を含む鴨川市の発展に協力的な方々。そういった方々の意見の取りまとめや、それらを元にしたご提案は手伝える。 メディアPR、コンセプト設計 これまで紙媒体を中心に、広告・雑誌分野の制作を経験してきたので、PR分野の手伝いは可能。 ※協力隊活動の一環として、鴨川市・四方木地区のHPが間もなくできるので、必要があれば、四方木地区のプランを例に取った説明は可能。
安房土木事務所 (吉田良治委員)	<ul style="list-style-type: none"> 前原横渚海岸は通年を通し、鴨川市及び鴨川市観光協会により海岸清掃が行われ、美しい砂浜が維持されている。 新町通り周辺については、ほとんどの商店がシャッターを閉め閑散としている。 	<ul style="list-style-type: none"> 前原横渚海岸や近くに鴨川マリーナ・鴨川漁港が隣接しており、海と親しめ潮騒香るエリアとしての機能がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアによる海岸清掃等による、海岸愛護の啓発活動の推進。 	<ul style="list-style-type: none"> 前原横渚海岸及び広場東海岸の海岸漂着物(大規模なもの)の撤去等を実施し、鴨川市と協働し良好な海岸景観の維持に努める。